



長田 鮎奈

Ayuna Osada

キャピタルホテル 1000 株式会社

「明日から頑張ろうと思える
楽しみの場所を作りたい」

— 高校時代 —

高校在学中はパティシエの仕事に就くことを希望して食物文化科で勉強をしていました。実家が中華料理屋で、ご飯を自分で作って食べることも慣れていましたし、何よりも料理が好きでした。在学中は、研究授業で洋菓子コースを専攻し、自分が作ったお菓子を人に美味しいと言ってもらえることが嬉しくて、お菓子作りに没頭しました。

— 就職 —

調理員を希望してホテルの仕事に就職しましたが、研修を受ける中で接客をやってみると、お客様とお話することが楽しくて接客の仕事に魅力を感じるようになりました。入社して4か月間は宴会サービス係、その後はフロント係を任されています。

— 職場の雰囲気 —

私の同期はとても仲が良いです。仕事柄休みが合わないけれど、研修から一緒なのでとても良い関係です。年齢が違う同僚も友達のような感じです。



—仕事のやりがい—

調理関係の仕事に就くことを目指してきた私にとって、今のフロント係の仕事は勉強してきたことと全く違い戸惑うことも多いです。宿泊の予約が重複しないように注意しながら予約を受け付けたり、金額を間違えないように支払いを扱ったり、ミスが許されない状況に一人の社会人として責任の重さを感じながら仕事をしています。それでも、失敗しながら仕事を覚えてきて、成長したなど実感することもありますし、お客様から御礼のお手紙をいただいたりしたときはとても嬉しい気持ちになります。



—陸前高田という街について—

今は街に何もなければ、昔だって何もなくて、それでも友達と集まって話をするだけでも十分楽しかったです。進学などで県外へ出て行った人たちは戻ってきたくても働く場所がないと不安がっています。街に活気が出てくるためにも、若い人達に戻って来て欲しいなどは思います。



—目標—

仕事が忙しいとお客様とゆっくりお話しできないけれど、余裕をもって接するようにすることでお客様から感謝されたり、お客様に会いに来てもらえるような人になりたいです。

今の陸前高田にはみんなが集まることのできる場所がありませんが、ホテルを使ってもらうことで、明日から仕事を頑張ろうと思ってもらえるような楽しみの場所を作り出していきたいと思っています。